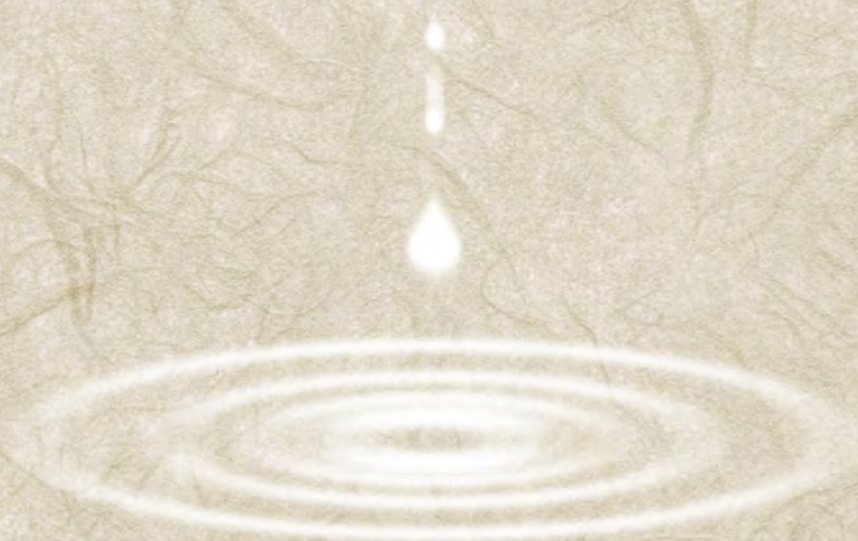


「知る」



株式会社リーテム

〒101-0021 東京都千代田区外神田3-6-10 Tel 03-3258-8586 Fax 03-3251-5804 <http://www.re-tem.com>



和の心で、ヨコにつながる コミュニティを創造したい

自然にムダはないと言われます。すべての物質や生き物は、長い年月を経てムダが削がれ、淘汰が進むことで生態系は保たれます。今年地球の人口は70億人を超えました。私たち人間と自然界とのバランスは大丈夫でしょうか。人間は生きるために身の丈を知り、自然と共存しなければなりません。必要なものとそうでないものを判断し、ムダをなくし美しく生きていきたいものです。

「転石苔むさず(A rolling stone gathers no moss)」には、「さびつかないよう動き続けよ」という西洋的解釈と「苔がはえるまで一事に精進せよ」という日本的解釈があります。同じものでも西洋と日本では見方が全く異なります。このように私たち日本人は無意識の内に「和の心」を身につけています。私は今こそもったいない精神に見られる簡素を重んじる「和の心」で環境問題を捉えるべきだと考えます。「和の心」で見れば、循環型社会への移行は当たり前だと感じるはずです。

リーテムは環境教育にも力を入れており、行政や企業の関係者、学生や子どもたち、海外視察団、全社員に向けて、資源リサイクル、再資源化の現場、サスティナブルシティ構築などについて意欲的に情報周知に努めています。これらの情報は「和の心」とリーテムの専門的視点に立ったものです。

こうした活動によってリーテムはコミュニティにヨコのつながりを創造し、サスティナブルな社会の形成をサポートしてまいります。環境教育に加え、環境技術、情報発信、コンサルティングなどを統合したエコマネジメントで人々の手がヨコにつながれば、次代を拓く知恵が必ず生まれると確信しています。

2001年から発行して10冊目となるCSRレポート2010／2011では環境教育に焦点を当てました。リーテムはこうした活動を通じて、自らの企業理念に謳う「希望と生命力にあふれた社会の実現」に向け努力を続けてまいります。皆様からの忌憚のないご意見、ご鞭撻、そして次代を作り出す多様な知恵をお寄せいただければ幸いです。

2011年12月
代表取締役 CEO
中島 彰良

伝える

足るを知る

“環境教育の普及で、
官民、産学、世代、
国境を越えた
つながりを作る”



和服に生きる「もったいない」の精神

中島彰良が身につけるのは、リーテム創業者で曾祖父に当る中島新次郎が仕立てたほぼ1世紀前の和服です。江戸時代、和服は古くなると古着屋へ売られ、その後、座布団、雑巾などへ使い回され、最後は燃やして燃料にし、その灰は肥料として使われました。リーテムは、環境危機への警鐘が高まる現代こそ、和服に代表される「もったいない」の精神が重要だと考えます。



未来に夢を抱くステークホルダーに 官民、産学、世代、国境を越えて

リーテムは、子ども、学生、取引先企業、行政、業界、研究機関、メディア、海外視察団、社員など幅広いステークホルダーに向けて環境教育を行っています。またその手法も、工場見学、研修、講演会／セミナー、イベントなど多岐に渡っています。

環境教育の実践(2009／2010年度の2年間)

工場見学	551 回
水戸工場／東京工場で再資源化作業の現場を見学。複写機、パソコンなどが、手解体／手選別で丁寧に前処理解体され、最終的に鉄、アルミ、ステンレスなど各種金属類に破碎・選別される様子が理解できます。	
主な参加者(順不同)	
■子ども 芝中学校、江東区立越中島小学校、江東区立北町小学校、江東区立川南小学校、江戸川区立南小学校、江東区立毛利小学校など	
■高校・大学生 東京工業大学、芝浦工業大学、早稲田大学、慶応義塾大学、茨城大学、学習院大学、都立青山高等学校、茨城県立水戸養護高等学校など	
■行政関係 内閣総理大臣、経済産業省、環境省、東京都、茨城県、敦賀市、さいたま市、全国清掃都市会議、千葉県環境衛生促進協議会、埼玉県清掃行政研究協議会など	
■業界団体 JETRO(日本貿易振興機構)、日本電線工業会、日本粉体工業技術協会、日本鉄リサイクル工業会、廃棄物資源循環学会など	
■メディア ロイター通信、カナダTV、NHK、テレビ朝日、日経エコロジー、産経新聞など	
■海外関係 国際連合、ブラジル開発工商省、アフリカ諸国の在日大使館、国際機関APO(アジア生産性機構)、香港経済貿易代表部、北京市環境衛生協会、タイ政府産業地区管理局など	
■取引先企業 電気・電子、情報、エンジニアリング、エネルギー、食品、飲料、サービス、物流、商社、金融、その他	
研修・インターンシップ	25 回
行政、企業、学生などを対象に廃棄物再資源化事業の研修、インターンシップ(就業体験)を行っています。	
主な参加者(順不同)	
経済産業省新年度入省者、さいたま市職員、早稲田大学生、茨城県立水戸飯富養護学校生、水戸産業技術専門学院生など	

講演会／セミナー	61 回
行政、研究機関、企業、大学などに対して、リーテムの専門担当者が講演会／セミナーを数多く開催しています。	
主な講演・セミナーテーマ(順不同)	主催者
アジアの3R(廃家電のリサイクル)	環境省(中国北京市)
レアメタルリサイクルと中国でのEID	熔融飛灰資源化研究会
レアメタルリサイクルの取組みと今後の方向性	(社)日本粉体工業技術協会
小型家電・レアメタルのリサイクル	民主党
小型家電リサイクルの実践プラン	全国環境ビジネス企業連合会
国際環境ビジネス	早稲田大学
都市鉱山と資源リサイクル	学習院大学
廃棄物処理リスクマネジメント	自動車、飲料メーカーなど
廃棄物処理業者の監査	情報サービス会社など
金属廃棄物の適正処理	電子情報関連団体など
3.11以降の中小企業の環境経営について	NPO 法人環境経営学会
展示会・イベント	15 回
全国規模から地方自治体・企業主催まで、様々な環境イベントに参加しています。	
主な参加イベント(順不同)	
エコプロダクツ2010	
インターネブコンジャパン2010	
サイエンスカフェ(高萩市、北茨城市、日立市)*	
ひたち環境都市フェスティバル*	
古河関東ド・マンナ祭り*	
第36回ちびっこ広場(水戸市)など	
*は環境省モデル事業の一環として開催	
社員教育	25 回
資源問題、廃棄物処理法改正、CSR推進、放射能汚染廃棄物などについて数多くの勉強会を開催し、社員のレベルアップを図っています。	
主な研修(順不同)	
廃棄物処理法改正勉強会	
放射能汚染廃棄物取り扱い説明会	
資源問題勉強会	
RISM 研修など	

＜工場見学者から寄せられた声＞

茨城大学人文学部牧良明講師経営学ゼミナール
(水戸工場:2011年9月)

リサイクルの重要性を実感 新しい視野が生まれた

牧講師のテーマは生産システム。学生には現場を見る大切さを教えており、工場見学のため茨城県内はじめ県外の製造企業にも足を運んでいます。モノづくりは生産だけでなく廃棄・リサイクルされ、循環されていることを学習するためリーテムの水戸工場を訪れました。

牧講師と参加した学生に感想をお聞きました。

廃棄物処理の品質管理手法に驚く

牧良明講師

工場を見学して感心したのは、その品質管理手法。一般にモノづくりの現場では作業の改善・効率化のため、手順や注意点を文字や図で示す「見える化」が進んでいますが、水戸工場でも同様の手法が用いられていました。同質の品質管理手法が「作る」段階から「廃棄・リサイクル」の段階まで徹底していることが、日本のモノづくりを支える大きな力だと感じました。

資源再生企業のイメージが変わった

米澤卓馬さん(3年生)

資源の枯渇が深刻化する一方、膨大な廃棄物が資源としてリサイクルされている現状が理解できました。廃棄物といえば不法投棄のイメージがありましたが、ここでは安心・安全・信頼の下にきちんと処理されており、資源再生企業に対する見方が変わりました。

私たちの暮らしは大量の廃棄物の上に成り立つ

横谷正太さん(3年生)

工場の方から「1日100トンくらい搬入され処理している」と聞いて驚きました。これら廃棄物が資源として再利用されることに、資源再生企業の社会的役割は重要だと感じました。

「誰に」 伝えるのか



作るよりリサイクルの方が大変

高村幸香さん(3年生)

手作業で1台1台の空調機からフロンガスがきちんと回収されているのに驚きました。そこまでしなければならぬ時代なのでしょう。作るよりリサイクルの方がよほど大変だと実感し、新しい視野が生まれました。

私の国でも資源再生企業が必要

益子ジェシカさん(研修生)

アルゼンチンの日系自動車部品メーカーで働いており、約半年の予定で品質管理の研修に來ています。私の国には資源再生企業はほとんど知られていませんが、必要性を強く感じており大変勉強になりました。



持続可能な社会に向け ヨコにつながる事例が続々誕生

環境教育が目指すのはコミュニティのヨコのつながりです。従来、行政、研究機関、企業はとかくタテ割りといわれ、単独で取り組むため、ダイナミズムに欠けました。環境教育はこれを変革します。もちろん環境教育はひとつの手法で、そこには環境技術、研究開発などを統合したエコマネジメントが必要です。リーテムはエコマネジメントを強化します。

エコマネジメントの概念図



エコマネジメントはリーテムが提唱する持続可能な社会の形成に向けたコンセプトです。創業以来1世紀以上に渡り資源再生事業に取り組んできたリーテムは、資源再生のハードビジネスだけでは、環境問題の解決は困難と考えています。社会全体で環境負荷低減を図るためには、幅広い分野の人々が連携し、システムそのものを変革しなければなりません。そこに必要なのはソフトウェア、つまりマネジメントだと考えます。

事例1

東京都の国際協力・国際プロモーションに協力

リーテムは東京都が進める廃棄物処理の国際協力・国際プロモーションに協力し、東京スーパーエコタウンのサイトツアー、アジア各国との情報共有などを行っています。現在、急速な経済成長が続くアジアの各都市では、ゴミ処理施設の不足、徹底されないゴミの分別などのゴミ問題が深刻化しています。こうした現状を踏まえ、東京都は都市レベルでアジア諸都市のゴミ処理問題支援に乗り出しました。具体的には東京がこれまで蓄積してきたゴミ処理の技術やノウハウに関する情報提供、東京での処理状況視察受入などを行っています。こうした東京都の姿勢に賛同し、リーテムは積極的に事業を支援しています。



NEW環境展2011で紹介した
東京都の国際協力・国際プロモーション
のリーフレット

ものは何か

事例2

いばらきエコイノベーション推進委員会の運営を支援

リーテムは、2010年10月に発足した茨城県主催の「いばらきエコイノベーション推進委員会」を、その事務局として支援しています。同委員会は、県と県内に所在する研究機関や企業が協力し、環境を軸とした地域振興、資源循環、CO₂削減などを旨とする推進機関です。茨城県で事業を続けるリーテムは、県内に筑波研究学園都市をはじめ、先端技術産業、工業、農業などが集積する特色を活かし、茨城県を環境でリードする県にするための推進委員会設立を県に働き掛け、これが実現したものです。委員の選出には、環境問題研究の第一人者である山本良一東京大学名誉教授のアドバイスを受けました。委員会は2011年11月までにすでに5回の会議が開催され、中国をはじめとするアジア諸国とのビジネス交流などを進めています。



茨城県庁で開かれた
設立準備委員会の模様
(2010年5月)

いばらきエコイノベーション推進委員会のメンバーと討議内容

委員メンバー		(敬称略)
委員長	山本良一	東京大学名誉教授
委員	井上勲	筑波大学大学院
	大井滋	JX日鉱日石金属(株)
	窪田淳之	住友金属工業(株)
	佐藤洋	(独)国立環境研究所
	高橋庸一	(株)日立製作所
	中島彰良	(株)リーテム
	中島賢一	早稲田大学環境総合研究センター
	原田幸明	(独)物質・材料研究機構
	福地伸	茨城県日立市
	古田清人	(株)キャノン
主催	増子千勝	茨城県企画部
	三村信男	茨城大学
	宮下清貴	(独)農業環境技術研究所
	村上周三	(独)建築研究所
	矢部彰	(独)産業技術総合研究所
	事務局	茨城県企画部
		(株)リーテム

主な討議内容

- 茨城県内の企業・研究機関等におけるエコイノベーションの取組み
- 資源を有効に活用する技術開発 (事例発表)
- 中国への環境ビジネス展開とその課題 など

事例3

天津経済技術開発区のエコセンターを全面バックアップ

リーテムが提唱するエコマネジメントが、中国天津市で動き始めています。トヨタ、サムスンなど世界的企業が生産拠点を置く天津経済技術開発区(TEDA)に2010年3月に設立された天津泰達低炭素経済促進センターは、TEDA全体の環境保全をマネジメントするエコセンターで、リーテムの提案で設立されました。同センターは、情報交換、技術交流・支援、教育の場を設けることでTEDA内進出企業が抱える環境保全の課題解決をサポートし、TEDA全体の環境改善を進める役割を担っています。リーテムはコンサルティングや研修会、講演会での講師、視察ツアーの企画などを行い、全面的にバックアップしています。



天津泰達低炭素経済促進センター
の完成予想図
(2013年完成予定)

天津泰達低炭素経済促進センターの主な活動

<行政／企業向け情報発信>

- ・環境情報検索ウェブサイトの運営
(日本語:<http://www.ecoteda.org/japan>)
- ・ウェブサイト会員(約400社)向けニュースレターの配信
- ・環境専門月刊誌「泰達低炭素」の発行 など

<ビジネスマッチング(商談会の開催)>

- ・複合熱交換器省エネ技術
- ・中小企業の再資源売買マッチング支援 など

<環境技術支援(中小企業向け環境技術の市場調査)>

- ・工業省エネ技術検討会
- ・工業余熱利用技術交流会 など

被災地の一日も早い復旧・復興を願って

2011年3月に発生した東日本大震災により亡くなられた方、またそのご家族や被災された皆様に心からお見舞申し上げます。リーテムでは一日も早い復旧・復興を願い、震災で発生した災害廃棄物の処理が少しでも速く進むよう取り組んでいます。

大洗町で災害廃棄物処理を支援

茨城県大洗町は、東日本大震災で震度5強の揺れと4.9メートルの大津波に襲われ、沿岸部を中心に建物、道路などに大きな被害を受けました。大洗町は災害廃棄物の処理を、町の重要な観光資源である海水浴シーズン前までに終了させる方針を立て、大洗サンビーチ海岸を臨時的災害廃棄物集積所とし3月14日から受入れを開始しました。リーテムは処理委託先の選定、処分場の復旧に応じた搬出、集積所における管理などのアドバイスと共に、簡易版マニフェストによる廃棄物の種類、排出先、目測重量などの記録を提案、実施しました。その結果、処理の適正性と透明性が確保できました。作業は予定通り6月末に終了し、海水浴事業の開設に協力することができました。



津波に襲われた大洗町

復旧後の大洗町

水戸工場で災害廃棄物を保管

茨城県茨城町にある水戸工場は、構内の社員駐車場を、3月31日から4月12日まで、町内で発生した災害廃棄物の保管場所として茨城町に提供しました。コンクリートブロック、大谷石、瓦など約920トンに適正に保管・管理することで、町の早期復旧に寄与しました。



災害廃棄物の保管場所

災害廃棄物荷降の様子

災害廃棄物とは

災害廃棄物とは地震や津波などで発生した廃棄物のことで、がれき、倒壊家屋などの木くず、電化製品などがあります。東日本大震災の被災地では災害廃棄物を「仮置場」に移動し、仮設焼却炉などで処理していますが、それだけではとても間に合いません。被災地の復旧・復興のためには日本全体で処理に協力することが不可欠です。

キリンビール(株)仙台工場様の廃製品処理を支援

震災で大きな被害を受けたキリンビール仙台工場(宮城県宮城野区)から依頼を受け、リーテムが作業全体の総括会社となり、約4,000m²にのぼる廃製品(アルミ缶と廃酸や金属くずなどの混合物)の処理を請負しました。環境保全を第一にするキリンビールは、たとえ震災の非常時にあっても、飛散した廃製品内の液体を工場敷地内外、さらに運搬中も一滴も流出させないこと、また処理委託先の事前監査の徹底を厳しく追求しました。リーテムはこうした要請に応え、東京工場の専門技術者を仙台工場に派遣し分別処理、車両への積み込み方法などを支援、さらに法令遵守に基づく処理委託先の選定を進めました。作業は5月中旬にスタートし、7月初旬に完了しました。



廃製品処理前の様子(上、下)

東京都による広域処理受入れで処分業者に選定

リーテムは廃機械・機器類を破砕処分

国は東日本大震災で発生した膨大な災害廃棄物を処理するため、全国の自治体に広域処理を呼び掛けています。これを受け東京都は2013年までの3力年で約50万トンの災害廃棄物処理受入を表明、10月19日、リーテムは廃機械・機器類破砕処分の処理業者に選定されました。

事前に宮古市での選別作業を支援

10月下旬、災害廃棄物受入に先立ち、岩手県の要請を受けリーテムの専門技術者が宮古市に滞在して技術支援を行いました。災害廃棄物置場を訪れ、危険物の選別、効率的再資源化のための選別・分別方法のアドバイス、重機による切り出し作業の実地指導などを行いました。



宮古市のがれき仮置場の様子



重機による切り出し作業(宮古市)



リーテムの東京工場に搬入された宮古市の廃機械・機器類

東日本大震災による災害廃棄物の発生量

環境省は東日本大震災で発生した災害廃棄物の発生量を、宮城、岩手、福島の前3県だけで2,247万トンと推定しています。この量は岩手県での通常の廃棄物発生量の約11年分、宮城県では、約19年分にもなります。

11月から処理作業を開始

東京都は11月から岩手県宮古市の災害廃棄物の受入を開始し、リーテムの東京工場も処理作業をスタートさせました。宮古市からの搬出時、東京都での受入時に放射能測定が行われ、リーテムには安全性が担保された状態で搬入されています。またリーテムでも工場内で放射能の定点観測を実施し、徹底した安全管理の下で作業を進めています。

事業の詳細は「東京都環境局」(<http://www.kankyo.metro.tokyo.jp>)のホームページをご覧ください。

リーテム社内の東日本大震災対応

トップ自ら放射能汚染廃棄物の取り扱い、安全性確保を説明

第一に社員の労働安全性を確保し、同時にお客様への説明を明確にするため、リーテムは震災直後に放射能汚染廃棄物の受入方法と手順に関する社内ルールを策定、社長

が水戸工場、東京工場に出向き直接社員に説明しました。両工場はガイガーカウンター6台を購入、3月17日から廃棄物受入時に放射能の定点観測を開始し、数値を記録しています。以来今日に至るまで、測定値は周辺自治体が公表する数値とほぼ同様で推移しています。



社員を対象にした放射能汚染廃棄物の受入方法と手順に関する説明会(東京工場)

休業日変更、夏季休暇拡大で電力調整

土日から日月への工場休業日の変更、操業・営業時間のシフト変更、夏季休暇の拡大などによって電力調整を行い、国の要請である15%節電も実現しました。

その他の活動

社員による義援金を茨城県災害本部へ寄付したほか、社員による被災地でのボランティア活動などを行いました。

東京スーパーエコタウンのGHG削減効果は年間12万t -CO₂

2010年7月、リーテムがメンバーでもある東京スーパーエコタウン協議会は、東京スーパーエコタウン主要施設全体の温室効果ガス（GHG=Greenhouse Gas）削減効果の試算結果を報告しました。それによると従来の一般的な処理（オリジナルケース）に比べ年間12万t -CO₂の削減効果があることが分かりました。この数値は、仮に各社が従来通り分散して操業を行った場合と実際に東京スーパーエコタウンで処理した場合のGHGとの差を試算したものです。東京スーパーエコタウンは先端技術を持つ再資源化企業が集中して操業しており、相互補完による資源循環、リサイクル率向上による天然資源の保全などが削減効果となって現れました。（算定方法はリーテムのホームページをご覧ください）

またリーテムではLCA分析も行っており、主要な使用済み製品を工場で処理する際の分析結果例を紹介しています。（<http://www.re-tem.com>）

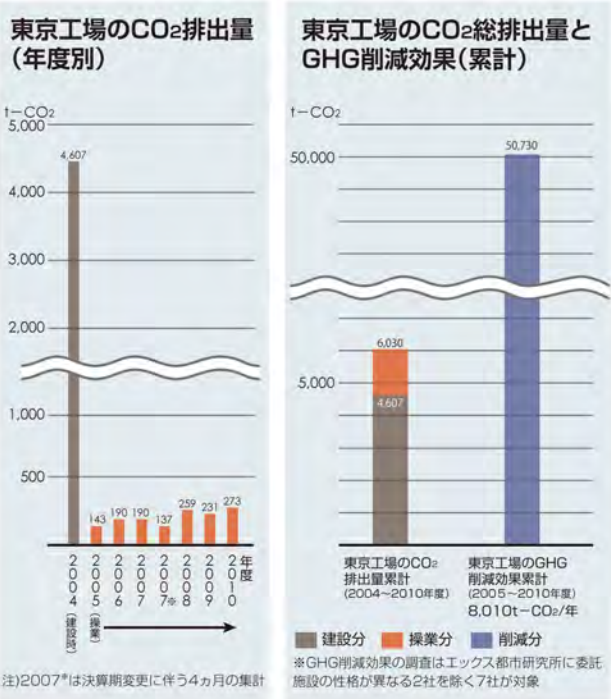
展示会で再資源化技術を紹介

2010年、リーテムは大規模な展示会に出展しました。1月に開催されたアジア最大のエレクトロニクス製造・実装技術展である第39回インターネブコン・ジャパン（会場：東京ビッグサイト）に出展、小型電子機器からのレアメタル回収を紹介しました。同展示会では「再生資源確保戦略」に関してセミナーも開催。レアメタルの価格高騰や資源国の輸出規制を背景に来場者から高い関心を集めました。また12月には、日本最大規模の環境展示会である「エコプロダクツ2010」（会場：東京ビッグサイト）にも出展、リーテムの資源循環センター構築支援、動静脈一貫マネジメントなど、多様な再資源化サービスの紹介を行いました。

東京工場の建設時と操業累計のCO₂排出量を相殺

この試算においてリーテム東京工場のGHG削減効果は年間8,010t-CO₂となりました。その結果リーテムで過去に算定した東京工場建設時のCO₂排出量4,607t-CO₂と操業7年間のCO₂排出量とを累計した総量は1年で相殺される計算となります。

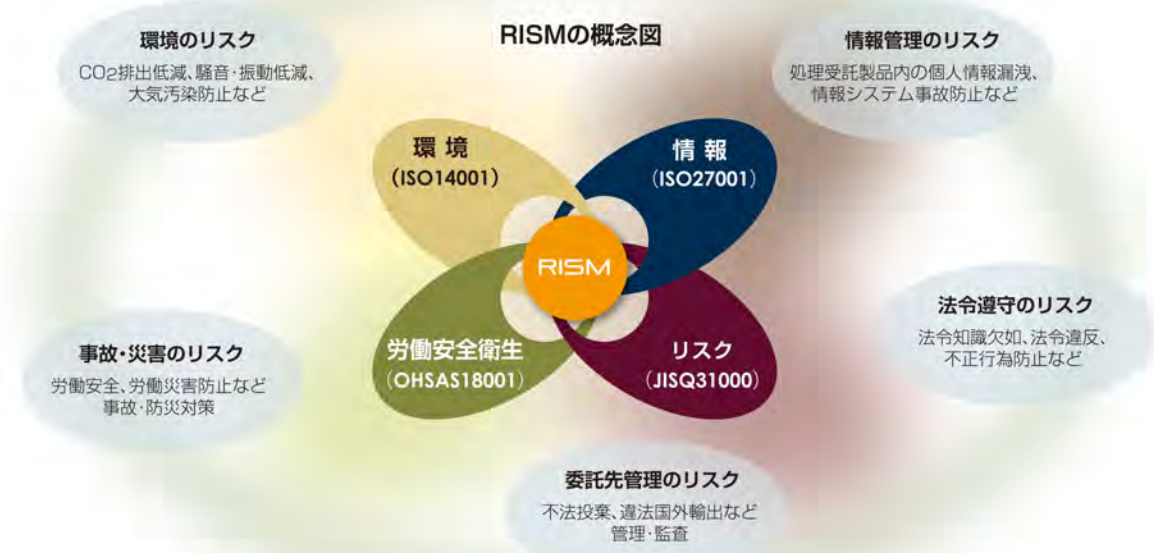
* GHGはCO₂を含め全6種あり、この内CO₂が最も地球温暖化に影響があるとされています。



リスク削減に向け独自にRISMを運営

リーテムは「RISM」と名付けた独自のマネジメントシステムにより、事業リスクの削減を図っています。RISMは環境、情報、労働安全、リスクの4つの公的規格を効率的に運用できるよう、ひとつに統合したシステムです。

社員が自発的にPDCAを回す仕組みを確立しており、お客様のニーズに応えるだけでなく、環境保全事業者であるリーテムが社会的責任を果たす骨幹としています。
RISM=Re-Tem Integrated System of Management



「RISM」2009-2010年度の目標達成状況(抜粋)

	方針	目標	主管部門	施策	達成状況
環境	処理工程で発生する廃棄物の削減	水戸／東京工場の処理工程から発生する廃棄物（委託処理）の削減	水戸工場 東京工場	● 廃棄物の種類に応じた付加価値向上のための処理工程の検討 ● 設備の導入・更新による処理工程の効率化	● 集じん設備を更新し湿式から乾式にしたことで、排水処理が不要になった ● 廃プラ・紙類選別の精度向上により委託処理量が減少
	CO ₂ 発生量の抑制	工場での処理に係るCO ₂ 発生量管理体制の確立	サステナビリティソリューション部	● 工場のCO ₂ 総排出量測定及び処理プロセスの標準的排出量データの取得 ● データの整理・管理手法の策定	● データの収集体制を構築しデータを取得 ● 東京工場建設時に発生したCO ₂ 量との比較・分析を実施
情報	情報システムの有効利用と管理策の向上	情報共有ソフトの導入・運用	情報システムグループ	● 基幹業務共通化のためのソフト（基幹システム）導入 ● 基幹システム運用・分析ルール	● 基幹システムを導入 顧客・品目のデータベース化、見積・受注・計量・経理等の業務を一括化 ● リーテム業務体系に合わせ最適化
	電子データのセキュリティ対策（2010年度）	業務データの社外持ち出し時の情報漏洩の防止	情報システムグループ	● 社外持ち出しパソコンにハードディスクの暗号化ソフトを導入 ● 情報の社外持ち出しに関するリスク教育の実施	● 社外持ち出し許可パソコンを認定し、ハードディスク暗号化ソフトを導入 ● 社外情報漏洩リスクとセキュリティ意識向上に向けた教育を実施
リスク	工場設備の更新	工場設備の老朽化などによる、環境・業務リスク発生の防止	水戸工場	● 老朽化設備の洗い出し及び評価 ● リスク評価の高い設備の更新 ● 日常点検の確実な実施による不調箇所の早期発見、対応、メンテナンス	● 破砕処理のモーター・集じん装置の更新 ● 日常点検項目の見直しと強化、早期メンテナンスの実施
労働安全	大規模災害（震災）対策	● 災害発生時の従業員の安全確保 ● 安否確認の通信手段確保	全社	● 災害発生時の緊急対策手順書を作成 ● 緊急避難手順書の見直し ● 緊急連絡名簿、体制の見直し	● 緊急対策手順書及び緊急避難手順書を継続して作成中 ● 緊急連絡名簿、体制の見直しを実施

環境負荷の全体像



2009年度は2009年8月～2010年7月 2010年度は2010年8月～2011年7月

日本と中国が連携し高効率な資源循環を実現



東京都の資源リサイクルのモデル地区である東京スーパーエコタウン内で2005年から操業しています。主にパソコン、サーバーなどの情報機器類、自動販売機、ATMなどの大型金属系機器を処理しており、回収した非鉄金属混合物は水戸工場に搬送し、さらに細かく粉碎選別処理するなど適正な再資源化を行っています。

■工場概要
所在地：東京都大田区城南島三丁目2番9号
敷地面積：5,293m²
処理能力：破砕機864 t／日



1970年に建設した鉄、金属プラスチック複合材のリサイクル工場です。情報機器類、大型金属系機器などの再資源化を行っており、現在、多くの情報機器メーカーの広域再生認定指定工場となっています。とくに金属プラスチック複合材については1993年に導入した独自開発の高性能特殊金属破砕・選別機によってゼロエミッション処理を実現しています。

■工場概要
所在地：茨城県東茨城郡茨城町長岡3520
敷地面積：29,287m²
処理能力：破砕機37.8 t／日、切断機80.0 t／日



中国江蘇省太倉市で2010年11月から操業を開始した最新工場です。江蘇省ははじめ隣接する浙江省、上海市にある中国／日系メーカーの廃棄物処理を行うほか、日本や諸外国から輸入した鉄混合物や廃プラスチック類の処理も手掛けています。

■工場概要
工場運営会社：利泰姆環保資源(太倉)有限公司(リーテム100%出資)
所在地：江蘇省太倉市
敷地面積：28,000m²



日々自分が鍛えられていると思える工場

東京事業部 総務グループリーダー
森田建治(社歴6年)

入社前は単純な選別作業の繰り返しというイメージがありましたが、実際に働いてみると搬入物の種類は様々、選別は細かく、量も変動するので、臨機応変、迅速な対応が求められ、自分が鍛え上げられているのが実感できます。こうした日々の作業が循環型社会の形成につながると考えており、やりがいを感じています。東京工場はリサイクル施設とは思えない白を基調にしたモダンなデザイン。入り口から出口まで一望できる見学通路もあり単純明快に処理工程が理解できます。ぜひ見学にいらして下さい。



工場がどんどんきれいになっていく

水戸事業部 副部長
市村貴光(社歴18年)

水戸工場は事業部、営業部、総務部が同じ敷地で仕事をしており、部門を越えて意見交換やコミュニケーションがとれ、何でも話し合える明るい職場です。長く働いていて一番感じるのは、入社した当時と比べて工場が格段にきれいになったことですね。皆が協力してコンクリート舗装工事などを計画的に行ってきた成果です。工場見学に来られた方に気持ち良く見学していただくためには元氣なあいさつはもちろん、清掃の徹底が大切です。今後も今以上にきれいな工場にしていきたいと考えています。



環境問題は人類存亡に係るテーマです

管理部門
銭小紅(社歴5年)

私はリーテムの中国現地法人である利泰姆環保資源(太倉)に2006年1月に入社して以来、総務業務に携わってきました。中国工場は日本の優れた廃棄物処理ノウハウを備えた国際資源循環のモデル工場です。政府が定めた廃棄物の輸入、管理、処理に関する各種法令を遵守して操業を続けており、工場のある太倉港再生資源輸入加工区の優良工場でもあります。環境問題は人類存続に係るテーマであり、私たち社員の高いモチベーションにつながっています。

会社概要

会社名：株式会社リーテム(Re-Tem Corporation)
代表：代表取締役CEO 中島彰良
所在地：■ 本社
〒101-0021
東京都千代田区外神田三丁目6番10号
TEL:03-3258-8586
FAX:03-3251-5804
■ 水戸工場
〒311-3116
茨城県東茨城郡茨城町長岡3520
TEL:029-292-1220
FAX:029-292-1225
■ 東京工場
〒143-0002
東京都大田区城南島三丁目2番9号
TEL:03-3790-2100
FAX:03-3799-8500

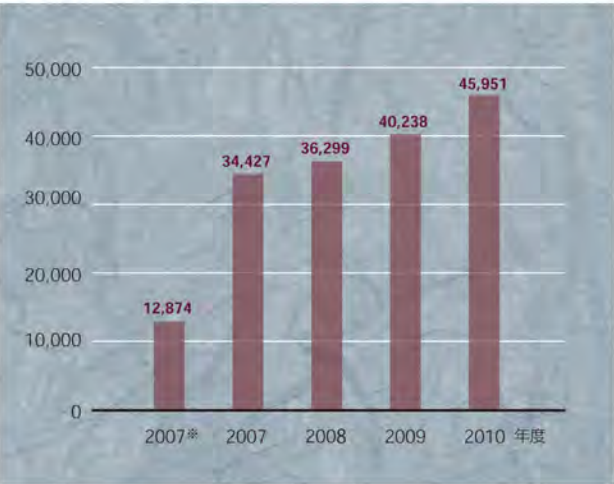
海外法人：＜中国＞
利泰姆環保資源(太倉)有限公司
利泰姆(北京)環境科技諮詢有限公司
＜米国＞
Re-Tem Global Eco Management Inc.

資本金：3,600万円
創業：1909年(明治42年)
会社設立：1951年(昭和26年)
売上高：31億1,400万円(2010年度)
社員数：129人(2011年12月末)
事業内容：エコインダストリアルパークなどにおける
リソースマネジメント及びエコセンター
マネジメント／資源循環・リサイクルに関する
コンサルティング／資源のリサイクル及び
リユース／製鋼原料及び非鉄貴金属原料の売買
／建築物・工作物の解体、移設、撤去
許可：産業廃棄物処分業・産業廃棄物収集運搬業・
一般廃棄物処理業・第一種フロン類回収業・
一般建設業・倉庫業・古物商・金属くず商

売上高(単位:百万円)



取り扱い物量(単位:トン)



年度は8月～7月(例：2010年度は2010年8月～2011年7月)
2007*は決算期変更に伴い2007年4～7月の4ヶ月決算です。

編集後記

報告書をお読みいただきありがとうございました。
今回の報告書は、近年、当社が力を入れる「環境教育」に焦点を当てました。リーテムでは、行政、企業、研究機関、市民など様々な人々に向けて、深刻な環境危機、資源リサイクルの必要性、垣根を越えた環境保全の重要性などを訴え、異分野の人々をヨコにつなげたエコマネジメントによる持続可能な社会の形成を呼び掛けています。こうした活動について、「何を」「誰に伝え」「何を指すのか」の構成で分かり易く紹介しています。
トップメッセージでは、日本の伝統的な心で環境問題を考える必要性を訴えています。華美に走る豊かさの追求が地球の環境問題を引き起こしていることに気づき、簡素を重んじる「和の心」で環境改善を考えることが重要だと理解できます。リーテムは、質素や倹約を尊ぶ日本の伝統的な心を大切にしています。
今年3月の東日本大震災の発生から、現在、そして今後も継続を予定する当社の取り組みをご紹介します。
リーテムでは、一日も早い復旧・復興を願い、微力ながら今後も最善を尽くしてまいります。
なお、本年のレポートは「2010／2011」とし、2年間の

活動をご紹介します。本報告書について皆様から忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

2011年12月
経営管理部 CSR室

■報告期間
2009年度(2009年8月～2010年7月)
2010年度(2010年8月～2011年7月)
大きな進捗状況があったものは2011年12月まで記載
■参考にしたガイドライン
環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」
GRIガイドライン2006(第3版)
■報告書の発行
年1回(次回は2012年12月を予定)
■報告書の責任編集／お問い合わせ先
経営管理部 CSR室 TEL: 03-3258-8586